

## 第3回 京奈和自動車道（大和北道路） 環境影響評価検討専門部会〔議事要旨〕

### 1. 開催日時

平成16年7月30日（金） 10:00～12:20

### 2. 開催場所

奈良県新公会堂 会議室3

### 3. 出席者

池田有光、大西有三、小船武司、○斎藤峻彦、瀬林伝、高田研一、  
西田正憲、水野正好、 梁瀬度子 <敬称略、五十音順、○印は部会長>

### 4. 議事

#### (1) 第2回議事要旨の確認

事務局より議事要旨の説明を行った。

#### (2) 文化財保護の観点からの意見等

事務局より意見等の説明を行った。

委員からの主な発言は以下のとおり。

○文化財保護の観点からの意見等については十分認識した上で、今後の審議を進めていく必要がある。

○大和北道路により、周辺道路の渋滞はむしろ緩和されるという検証が大和北道路有識者委員会でもなされている。

#### (3) 環境影響評価方法書（案）について

委員からの主な発言は以下のとおり。

#### 《総論》

○道路構造などの事業計画は出来るだけはっきりと記載すべきである。

○文化財保護の観点からの要望も踏まえながら、道路の議論は進めていく必要がある。

## 《各論》

- 植生については人為的な影響が強く、動的な予測評価が可能な調査法を加えるべきである。
- 観光動線における景観などの多くの視点場を設定し、フォトモンタージュで検証すべきである。
- 大気質等においては、経験式や統計的手法などで補完するなど、出来るだけ柔軟な手法で行うべきである。
- 大和北道路の周辺道路の交通流の変化等も分析すべきである。
- 景観は遠景と近景が必要であり、眺望景観だけでなく、住民の視点となる「場の景観」についても評価すべきである。
- 人と自然のふれあいの場として、親水性のある河川や都市公園も抽出すべきである。
- 人と自然のふれあいの場における利用者の視点も必要である。
- 光害、電波障害、換気塔からの低周波音の影響も検討すべきである。
- 動物について、建設機械の稼働音の環境についても検討すべきである。
- 動物は季節により動きが違い、信頼性の高い十分な調査を行ってほしい。
- 地下水は地表水の影響の調査が必要である。

以上を踏まえ、今後事務局において、方法書（案）の内容について検討を進めることとなった。